

学校目標・経営方針	「進取の精神」のもと、自ら思考し実践する、これからの社会で輝ける生徒の育成
本年度の重点目標	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成 多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成 地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成 教員の働き方改革に関する取り組みを推進する。
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立青洲高等学校校長 小林 智	
評価	4 良くできている。 3 できている。 2 あまりできていない。 1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(2月3日現在)
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果
1	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	実態に即した授業改善、アクティブラーニング・ICT活用の視点からの授業改善に取り組み、生徒の基礎学力と学習習慣を定着させる 新学習指導要領を確実に実施し、各教科で評価方法の充実に取り組むとともに、生徒の自己肯定感を醸成させる取り組みを行う 「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観を通して教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりに取り組む	授業アンケート 学校評価アンケート 観点別評価 通知表への表記方法 相互授業参観の状況 授業アンケート 学校評価アンケート
2	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成	各授業において、主体的・対話的で深い学びを推進し、他者と協働して問題解決に取り組む場面を設ける 学校行事・生徒会活動・部活動などを通して、多様な立場の人たちと関わり合い、良好な人間関係を形成できる場面を設ける 教員間の連携や保護者との連携を通して、生徒の良好な規範意識を育成する	授業アンケート 学校行事の計画実施 部活動の活性化 教員間の情報共有 保護者への情報発信
3	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成	「峡南地域学」「総合的な探究の時間」「LHR」等を活用し、外部機関と連携しながら職業教育を推進すると共に、青洲学を通して地域を知り、将来の地域貢献への基盤をつくる 挨拶の励行や生活習慣の指導を通じて、将来の社会生活における良好な人間関係づくりの基盤をつくる 生徒や保護者・地域への情報提供を充実させ、生徒の進路意識の向上と、保護者・地域の学校への理解を図る	計画的な実施 外部との連携 地域社会への関心度 校内での挨拶の状況 服装、頭髪、遅刻状況等の様子 各種便りの充実 HP等の充実
4	教員の働き方改革に関する取り組みを推進する。	勤務時間管理の徹底と適切な勤務時間を設定し、勤務時間や健康管理を意識した働き方を徹底する。 「きずなの日」(放課後に部活動や会議等を実施しない日)など、子供と向き合う時間を確保する。 部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に取り組む。	勤怠管理 学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	・学校評価の結果から、先生方がICT機器を有効に活用し、生徒の主体性や協働性を重視した授業改善に努めていること、また、「山梨スタンダード」に基づく授業実践を日々実践し確かな学力の育成に努め、成果をあげていることが伺える。 ・各授業単元ごとに「山梨スタンダード」を踏まえたPDCAサイクルを回され、授業改善がなされたと思う。今後に課題は残るものの、1年間の成果を感じる事ができた。 ・ICTを早く取り入れた授業改善は見事である。今後も魅力ある授業づくりを推進してほしい。 ・生徒からの評価についてはアンケートが多用されているが、個々に直接聞き取ることも重要である。 ・生徒対象アンケートでは、ICTを活用した授業が評価され、その他の項目も一定の評価を得ている。 ・授業参観からは、生徒の落ち着いた授業態度が見受けられ、魅力ある授業づくりが行われていると感じた。 ・アンケート結果からも、ある程度の結果が出ていると感じる。 ・進路に関する生徒たちの満足度についても検証してもいいと思う。
4	・授業において主体的・対話的な活動の充実が図られている点は素晴らしい。 ・校則等の見直しは、生徒や保護者の意見も取り入れながら、共に考え、時代に合ったものへと変えていく必要はあると感じる。 ・協働や良好な人間関係の構築、規範意識の醸成などは社会人としてもっとも重要なことである。学校生活の中で、多様性を認めあう環境整備を行う現状が伺えた。 ・部活動、生徒会活動等の指導は素晴らしいが、担当教員への負荷が大きいと思う。外部への委託を検討するべきである。 ・部活動においては勝敗も大切だが、生徒を追い込みすぎないように注意することが肝要である。 ・大きな問題はないと思うが、いじめについては再発防止と加害者・被害者双方のフォローをお願いする。 ・感染症予防が生徒たちの行動にどの程度影響したかは不明だが、他者と協議しながら問題解決に取り組んだ成果がアンケートから確認できる。 ・理髪店については、正に他者の意見を認め合い、協働を促す学習の場となったのではないかと感じる。
3	・未来の創り手となるべき高校生にとって、系統的なキャリア教育は重要であり、組織的・系統的に進められている青洲学の意義は大きいと感じる。また、現在行っている中高連携(合唱指導や高校訪問等)を今後とも是非継続してほしい。 ・青洲高校の特徴である青洲学の実践やボランティア活動への参加、挨拶の励行などについて、地道に努力した成果が感じ取れた。 ・地域の活動に積極的に参加し、社会貢献をよく果たしている。 ・生徒の新聞への投稿が多いことに感心する。そのための教員の丁寧な指導に感謝する。 ・青洲学については教員・生徒共に低評価であるが、互いに目標が高いからという理由であってほしい。地域に根ざす青洲高校の存在意義を、無理せず肩を張らずに醸成してほしい。 ・挨拶の励行や生活習慣の指導に関する教員と生徒の評価値の乖離が大きいのが、地域住民からの生徒への評価も調査してみたいと思う。 ・青洲学のあり方については改めて考えてもよいと思う。
3	・県からの指導もあり、働き方改革についての職員の意識も高まっていることが分かる。特に部活動については、問題や課題も多いことだが、ガイドラインの遵守をはじめとした全体的な取組が欠かせないのではないだろうか。 ・社会的にも難しい課題である。究極的には教員一人一人の自覚と工夫に頼らざるを得ないと思う。地域社会への協力要請も含めて、今後も改善を推進してほしい。 ・教員の勤務時間管理は管理職ができるものではない。調査・報告が多いため、教員はコンピュータに縛られている。生徒と向き合う時間を中心に考えないと、教員の仕事量は増加するばかりだ。 ・この問題は学校だけで取り組むことではない。ただ、学校でもできるだけ教員の負担が減るような工夫をしてほしい。 ・働き方改革には何か一つやれば解決するという特効薬はない。こと学校においては生徒指導、部活動や保護者対応などに対して、小さな取組を重ねることが必要だと感じる。教育活動には必ず意義があり継続されているのだから、限りあるマンパワー、予算、時間を有効活用するには、どうしても業務に優先順位をつけて精選していかなければならないので熟慮を重ねてほしい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。